

スポーツ柔整科・柔道整復科 JT22A JT23A JT24A

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1年次		2年次		3年次	
							前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の 基盤人間と生活	必修	生物学	講義	4	60	30	30				
		必修	栄養学	講義	2	30	15	15				
		必修	医療コミュニケーション	講義	4	60	30	30				
		必修	情報リテラシー	演習	2	30	30					
		必修	医用英語	講義	2	30	15	15				
専門基礎	人体の構造 と機能	必修	解剖学Ⅰ(運動器：骨格系、筋系)	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖学Ⅳ	講義	2	60			30	30		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	2	30	30					
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	15			15			
		必修	運動学	講義	2	60			30	30		
		必修	高齢者の生理学的特徴・変化	講義	1	15			15			
	必修	競技者の生理学的特徴・変化	講義	1	15				15			
	疾病と傷害	必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	30					30	
		必修	病理学	講義	2	60			30	30		
		必修	外科学概論	講義	2	30				30		
		必修	整形外科概論	講義	2	30				30		
		必修	リハビリテーション医学Ⅰ	講義	2	30			30			
		必修	リハビリテーション医学Ⅱ(高齢者の運動機能維持・回復)	講義	1	15				15		
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	30						30
	保健医療福祉 と 柔道整復の理念	必修	関係法規	講義	2	30						30
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	60						30
		必修	職業倫理	講義	1	15						15
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	30		30				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	30			30			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	30				30		
	必修	柔道Ⅳ	実技	1	30						30	
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	15			15			
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	60	15	45				
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	30	15	15				
		必修	基礎柔道整復学Ⅵ(外傷保存療法経過及び治癒の判定)	講義	2	60					30	30
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ(物理療法機器の取扱い)	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ(柔道整復術の臨床的判定・医用画像)	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅸ(機能訓練指導)	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅹ	講義	1	30						30
		必修	臨床柔道整復学Ⅺ	講義	1	30						30
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅱ(臨床実習前施術試験等)	実技	1	30	15	15				
必修		柔道整復実技Ⅲ	実技	2	60	30	30					
必修		柔道整復実技Ⅳ(高齢者の外傷予防)	実技	1	30						30	
必修		柔道整復実技Ⅴ	実技	2	60			30	30			
必修		柔道整復実技Ⅵ(競技者の外傷予防)	実技	1	30				30			
必修		柔道整復実技Ⅶ(機能訓練指導実技)	実技	1	45			45				
必修		柔道整復実技Ⅷ(機能訓練指導実技)	実技	1	30						30	
必修		柔道整復実技Ⅸ(スポーツコンディショニング実技)	実技	2	60						30	
必修		柔道整復実技Ⅹ	実技	2	60						30	
必修		柔道整復実技Ⅺ	実技	2	60						30	
臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45					
	必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45				
	必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45			
	必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45					45		
合計					107	2775	435	480	480	480	480	420

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

解剖学Ⅰ・Ⅱで学習した知識に加え、生体において重要な情報の伝達を担う内分泌系・神経系および感覚器系を中心として、身体諸器官の構造・形態・機能を正確に把握する。それぞれの身体構造について系統的に理解し、知識の統合を図るよう留意して授業を行う。

2 到達目標

解剖学を通じて基礎医学への知識を深め、医療従事者として求められる人体への理解・尊厳についての素養を身につける。

3 授業の方法

教科書の内容を中心として、PC プロジェクタを利用したスライドによる講義を行う。スライド内容についてはレジュメ資料を配布し、講義内容理解の補助とする。随時小テストを実施し、講義内容の理解を確認する。

4 成績評価方法・基準

定期試験の成績を 80%、小テストの成績合計を 20%として評価する。

5 評価の際の特記事項

小テストを平常点とするため、欠席が多いと平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を重視する。講義理解度確認のために重要な箇所については国家試験形式の小テストを実施する。自己採点評価を通じて知識の補完を図るとともに、国家試験に向けた自主学習法を習得する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂版第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

ドイツの心理学者ヘルマン・エビングハウスによれば、1日後には74%、1週間後には77%、1か月後には79%の記憶が失われるそうです。この忘却に逆らい記憶を定着する最も有効な方法は反復です。講義内容についても反復的に復習を行い、来年の国家試験受験時には必要な解剖学の知識が定着された状態にできるようにしましょう。

9 教員氏名 （ 井川 一成 ）

所 属 （ 常岡歯科診療所 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (解剖学Ⅲ)

回数	授業内容
1	内分泌系 (下垂体)
2	内分泌系 (甲状腺・上皮小体・松果体・副腎)
3	内分泌系 (膵臓・精巣・卵巣)
4	神経系 A 神経系の基礎
5	B 脳 (終脳・間脳)
6	B 脳 (中脳、橋、延髄・小脳)
7	C 脊髄 (区分)
8	C 脊髄 (伝導路)
9	D 末梢神経 脳神経
10	脊髄神経 (頸神経叢)
11	脊髄神経 (腕神経叢)
12	脊髄神経 (胸神経)
13	内分泌系 おさらい
14	神経系 おさらい
15	中間試験
16	試験解説
17	脊髄神経 (神経叢)
18	脊髄神経 (腰・仙骨神経叢)
19	自律神経系 (交感神経)
20	自律神経系 (副交感神経)
21	感覚器系 A 外皮 (皮膚)
22	B 視覚器 (眼球)
23	B 視覚器 (眼球付属器)
24	C 聴覚器および平衡器 (外耳)
25	C 聴覚器および平衡器 (中耳)
26	C 聴覚器および平衡器 (内耳)
27	感覚器系おさらい (視覚器)
28	感覚器系おさらい (聴覚器・平衡器)
29	神経系おさらい 末梢神経 (脳・脊髄神経)
30	神経系おさらい 末梢神経 (自律神経)
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

解剖学Ⅰで学習した知識を再度学習し、より理解を深めていく。医療従事者として基本的な解剖学の知識、触診部位、筋の起始・停止について学習する。

2 到達目標

解剖学を通じて基礎医学への知識を深め、医療従事者として求められる人体への理解・尊厳についての素養を身につける。

3 授業の方法

授業資料を配布し、オンライン形式で実施する。

教科書の内容を中心として、PC プロジェクタを利用したスライドによる講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で分からなかったことをそのままにしないよう、また習ったことを定着させるよう、時間をあけないで復習することが大切です。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂版第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

専門職の無知は犯罪であるという言葉があります。覚えるべきことがたくさんあり大変だとは思いますが、施術をするために必要不可欠な知識です。自分自身のため、患者様のためにもぜひ知識を蓄えて下さい。

9 教員氏名 （ 川上 恭 / 伊藤 元太郎 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (解剖学Ⅳ)

回数	授業内容
1	体表解剖 体表区分
2	体表解剖 骨格系① (頭部～背部)
3	体表解剖 骨格系② (上肢、下肢)
4	体表解剖 筋系① (顔面～背)
5	体表解剖 筋系② (上肢、下肢)
6	体表解剖 脈管系① (動脈：頭部、頸部)
7	体表解剖 脈管系② (動脈：上肢、下肢、心尖拍動)
8	体表解剖 脈管系③ (静脈)
9	体表解剖 神経系① (顔面)
10	体表解剖 神経系② (四肢)
11	体表解剖 目、耳、鼻、口
12	体表解剖 外皮
13	体表解剖 生体計測
14	映像解剖
15	中間試験
16	試験解説
17	脊柱の構造
18	胸郭の構造
19	上肢骨
20	下肢骨
21	頭蓋骨
22	体幹の筋
23	上肢の筋① (上腕)
24	上肢の筋② (前腕)
25	上肢の筋③ (手)
26	下肢の筋① (大腿)
27	下肢の筋② (下腿)
28	下肢の筋③ (足)
29	頭頸部の筋① (表情筋)
30	頭頸部の筋② (咀嚼筋)
31	定期試験
32	試験解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (生理学Ⅱ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

生理学の後半として「血液」「骨の生理」「循環」「呼吸の生理」「尿の生成と排泄」「栄養と代謝」「消化と吸収」「体温と調節」について学ぶ。

2 到達目標

- ・血液および循環器系の機能を説明できる。
- ・骨の構造・成長・代謝を説明できる。
- ・呼吸器系の機能を説明できる。
- ・泌尿器系の機能を説明できる。
- ・栄養と代謝を説明できる。
- ・消化器系の機能を説明できる。
- ・体温調節のメカニズムを説明できる。

3 授業の方法

液晶プロジェクターやプリント・板書を用いて授業を進める。また單元ごとに小テストおよび国家試験問題を用いて問題演習を行うことにより、知識習得の確認と定着を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、平常点（出席および小テスト）を 20%として評価する。

5 評価の際の特記事項

前期と後期に分けて2回、定期テストを行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

單元ごとに教科書および配布プリントを用いて、復習を中心とした学習を行ってください。授業で配布した国家試験問題および小テスト問題は必ず教科書を用いて復習をし、理解を深めること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改訂第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

生理学は自分の身体の中で起こっていることを学ぶ、とても身近な学問です。生理学Ⅰと同様に、生理学Ⅱでも「生きる」ということがどんなに素晴らしいメカニズムで成り立っているかを感じ、興味を持って取り組んでもらえるよう、わかりやすい授業を心がけますので、授業のできる限り学び取ってください。

9 教員氏名 (藤山理恵)

所属 (長崎大学生命医科学域総合歯科臨床教育学分野)

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (生理学Ⅱ)

回数	授業内容	
1	8. 血液	A 血液の成分と組成
2		B 止血 C 血液型
3		D 免疫
4	9. 骨の生理	A 骨の構造
5		B 骨の成長
6	10. 循環	A 心臓 前半
7		A 心臓 後半
8		B 血管
9		C リンパ系
10		D 循環調節
11	11. 呼吸の生理	A 呼吸器系の構造
12		B 換気
13		C ガス交換と運搬
14		D 呼吸周期の調節
15	中間試験	
16	試験解説	
17	12. 尿の生成と排泄	A 腎臓の構造と機能
18		B 尿の生成
19		C 腎血流量
20		D 排尿 E 腎臓による体液の調節
21	13. 栄養と代謝	A 生体に必要な栄養素
22		B エネルギー代謝
23		C 栄養素の代謝 D 食物の栄養
24	14. 消化と吸収	A 消化器系の構造とはたらき
25		B 食物の消化と吸収 前半
26		B 食物の消化と吸収 後半
27		C 各栄養素の消化と吸収 前半
28		C 各栄養素の消化と吸収 後半
29	15. 体温と調節	A 体温 B 熱産生 C 熱放散
30		D 体温調節 E 気候順化 F 発熱とうつ熱
31	定期試験	
32	試験解説	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

1年生で学習した解剖学、生理学を復習しつつ、2年生で学習する解剖学、生理学の内容も合わせて、人体の仕組みについて統合的な理解をめざす。

2 到達目標

解剖学と生理学で学習した内容を自分の中で統合して説明できる。

3 授業の方法

プリントを配布、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%、授業態度や小テストも加味する

5 評価の際の特記事項

小テストの評価も授業態度に加味される。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

他に受けている解剖学と生理学の授業も、この授業の予習と復習と思って関連付けながら学習すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂第2版）医歯薬出版

全国柔道整復学校協会監修 「生理学」（改訂第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

授業が進むうちにいろいろな部分のつながりが見えてくると、一気に仕組みの理解が深まります。自分自身の体の中で起きていることが見えてくると生命を大切にすることも育ちます。

9 教員氏名 （ 川上 恭 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (解剖生理学Ⅱ)

回数	授業内容
1	細胞の構造と細胞活動 血液
2	心臓と血管 血圧調節
3	呼吸運動 呼吸とガス交換
4	消化活動 吸収活動
5	栄養と代謝・体温 尿の生成と体液
6	内分泌 ホルモンの性質と種類 内分泌 ホルモンと体液調節
7	生殖
8	骨代謝と体液調節
9	神経細胞 神経系 脊髄
10	神経系 脳幹・小脳 自律神経系
11	神経系 大脳基底核 大脳皮質 高次脳機能
12	骨と筋 筋収縮 強縮とエネルギー
13	感覚 受容器と適刺激 感覚 感覚伝導路
14	解剖生理学のまとめ
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

身体の運動について、その全体像を概観する。

2 到達目標

運動学的基礎知識の習得と身体運動のメカニズムについて考察できるようになる。

3 授業の方法

プリントを配布、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「運動学」（改訂第3版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

私たちが何気なく行っている身体運動は複雑なメカニズムより構成されています。このことを理解することは、治療成績や臨床成績を向上するために必須となります。よりよい治療家となり将来の患者様の役に立つことが出来るよう、運動学の基礎を学びましょう。

9 教員氏名 （ 川上 恭 / 伊藤 元太郎 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (運動学)

回数	授業内容
1	運動学の目的
2	運動の表し方
3	身体運動と力学 A 身体運動に関する力
4	B 人体における単一機械構造
5	C 運動の法則
6	D 仕事と力学的エネルギー
7	運動器の構造と機能 A 骨の構造と機能
8	B 関節の構造と機能
9	C 骨格筋の構造と機能
10	神経の構造と機能 A 神経細胞
11	B 末梢神経
12	C 中枢神経
13	運動感覚 A 感覚と知覚
14	B 運動感覚と運動の制御機構
15	中間試験
16	試験解説
17	反射と随意運動 A 反射
18	B 連合運動と共同運動
19	姿勢 A 姿勢の分類 B 重心
20	C 立位姿勢
21	D 立位姿勢の制御 E 機能肢位
22	歩行 A 歩行周期
23	B 歩行の運動学的分析
24	C 歩行の運動力学的分析
25	D 歩行時の筋活動
26	E 歩行のエネルギー代謝
27	F 走行
28	G 異常歩行
29	運動発達
30	運動学習
31	定期試験
32	試験解説

科目名 (運動学)

回数	授業内容
33	四肢と体幹の運動 A 上肢帯
34	B 肩関節
35	C 肘関節
36	D ①手関節
37	D ②手
38	E 股関節
39	F 膝関節
40	G ①足関節
41	G ②足部
42	H 体幹と脊柱
43	I 頸椎
44	J 胸椎と胸郭
45	K 腰椎、仙椎および骨盤
46	L 顔面および頭部
47	中間試験
48	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 高齢者の生理学的特徴・変化 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

通常の生理学は青年期・壮年期の平均的な人間の状態を基本としている。ところが、柔道整復師が対象とする相手は高齢者も少なくないため、その方々の特徴について概観する。

2 到達目標

高学年になって高齢者と競技者の特性を本格的に学習する前の基本的なポイントとなる概念について把握する。

3 授業の方法

教科書を中心に、補足する資料を配布し、オンライン形式によって行う。

4 成績評価方法・基準

期末試験の成績で判定する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

基本的な解剖学、生理学および解剖生理学の授業の内容も合わせて予習復習する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学」（改訂第4版）

8 学生へのメッセージ

三世帯家族が減少し、日常的に高齢者の生活に接する機会も減少している一方で医療従事者にとって高齢者の対応は今後ますます重要になってくる。青年期とは違った高齢者の生理的状态や能力の特性を理解するよう心がけてもらいたい。

9 教員氏名（ 藤村 幸一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 高齢者の生理学的特徴・変化 ）

回数	授業内容
1	高齢者とは
2	細胞の加齢現象 細胞老化・テロメア
3	生体膜と細胞内小器官の加齢現象 生体膜・ミトコンドリア
4	体内水分量の変化 体液・ナトリウム
5	加齢による臓器機能の変化（1） 神経系
6	加齢による臓器機能の変化（2） 運動器系（筋）（骨）
7	加齢による臓器機能の変化（3） 感覚器系（1） 視覚・聴覚
8	加齢による臓器機能の変化（4） 感覚器系（2） 嗅覚・味覚・前庭感覚
9	加齢による臓器機能の変化（5） 循環器系・呼吸器系
10	加齢による臓器機能の変化（6） 消化器系・皮膚
11	高齢者に多い疾患・障害（1） フレイル・認知症・骨粗しょう症
12	高齢者に多い疾患・障害（2） 転倒・睡眠障害
13	運動と加齢（1） 歩行機能
14	運動と加齢（2） 平衡機能・反応時間
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 競技者の生理学的特徴・変化 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

通常の生理学は青年期・壮年期の平均的な人間の状態を基本としている。ところが、成長期から成人期にかけての継続した運動状況によって、個人の生理的状态や能力は個別に変化がみられる。柔道整復師として理解しておくべきそれらの特性を概観する。

2 到達目標

高学年になって高齢者と競技者の特性を本格的に学習する前の基本的なポイントとなる概念について把握する。

3 授業の方法

教科書を中心に、補足する資料を配布し、オンライン形式によって行う。

4 成績評価方法・基準

期末試験の成績で判定する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

基本的な解剖学、生理学および解剖生理学の授業の内容も合わせて予習復習する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学」（改訂第4版）

8 学生へのメッセージ

運動に伴う平均から外れた体格・体型や生理的能力を意識するよう心がけ、逆に平均的な状態の理解にも結びつけるよう心がけよう。

9 教員氏名（ 藤村 幸一 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 競技者の生理学的特徴・変化 ）

回数	授業内容
1	小児期から青年期の発育曲線 スキャモンの発育曲線
2	身長が発育 体重が発育
3	骨が発育 筋が発育 筋力の発達
4	呼吸循環系機能と運動 呼吸機能 心臓の発達
5	発育期の運動不足・過運動
6	トレーニングの三大原理 五大原則
7	骨の病気 使い過ぎ症候群
8	運動の発達と習熟 歩行・走行 持久力の発達
9	競技者の体格身体組成 骨密度
10	競技者の生理学的特徴・変化 競技者の骨格筋
11	競技者の心肺機能
12	姿勢調節能力の変化 競技による姿勢調節の特性
13	姿勢調節トレーニングと転移 眼球運動と姿勢制御
14	おさらい
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 一般臨床医学 I ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

診察の意義と実際、生命徴候の測定、生理機能検査や検体検査などの臨床検査について学ぶ。また主要な内科的疾患の定義や病態（原因、症状）、検査法、治療、予後について学び、一般臨床医学の理解を深める。

2 到達目標

柔道整復師として知っておくべき、ヒトを対象とした基本的な診察や検査法、主要な疾患について理解し、国家試験に対処できることを目標とする。

3 授業の方法

教科書に沿ってスライドを用いて解説し、適宜追加資料を配布し理解を促す。授業の最後に、演習問題（5問程度）を行い、次の授業で解説を行う。

4 成績評価方法・基準

中間試験 40%、定期試験 40%、授業態度 20%（小テスト、質問など）

5 評価の際の特記事項

授業態度は、小テスト（得点）や、質問（回数）などで総合的に評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って事前に教科書を予習・復習することで、理解が深まる。疑問に思ったところ、理解できないところは積極的に質問すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「一般臨床医学（改訂第3版）」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

医療者として、専門分野のみならず、目の前の患者さんが抱えている様々な疾患について理解することは、患者さんへの全人的なアプローチに繋がり、将来柔道整復師として仕事を行う際にも役に立つ必要な知識です。興味を持って取り組んでください。

9 教員氏名（ 世羅 至子 ）

所 属（ 長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 一般臨床医学 I ）

回数	授業内容
1	診察概論、医療面接
2	診察各論 視診
3	診察各論 打診・聴診・触診
4	生命徴候（バイタルサイン）
5	感覚検査・反射検査
6	代表的な臨床症状
7	臨床検査・生命徴候の測定
8	呼吸器疾患（肺炎・肺結核・その他）
9	呼吸器疾患（気管支喘息・COPD・その他）
10	循環器疾患（心不全・心臓弁膜症）
11	循環器疾患（高血圧・末梢動脈疾患・不整脈）
12	消化器疾患（食道・胃・大腸疾患）
13	消化器疾患（肝・胆・膵疾患）
14	消化器疾患（腸閉塞・イレウス・便秘症）
15	中間試験
16	試験解説
17	代謝疾患（糖尿病・低血糖）
18	代謝疾患（脂質異常症・肥満）
19	代謝疾患（メタボリック症候群・高尿酸血症・痛風）
20	内分泌疾患（下垂体性疾患・甲状腺疾患）
21	内分泌疾患（副甲状腺疾患・副腎疾患）
22	血液疾患（赤血球疾患）
23	血液疾患（白血球系疾患・出血傾向）
24	腎・尿路疾患（腎不全・慢性腎臓病・透析）
25	腎・尿路疾患（糸球体疾患・尿路感染症）
26	神経疾患（総論・脳血管障害）
27	神経疾患（認知症・変性疾患）
28	感染症（総論・呼吸器感染症）
29	感染症（尿路・中枢神経性など）
30	リウマチ・膠原病・アレルギー
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 病理学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

傷病の成り立ちについて細胞・組織の変化から学習する。

機能障害の機序や機能回復に期待される再生能力について学ぶ病理学は、柔道整復術の基礎となる重要な学問領域である。

2 到達目標

炎症、アレルギー、腫瘍、遺伝性疾患などの発生機序、種類と特徴を説明できる能力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行う。

また、理解度の確認のため適宜、授業内で小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 10%、中間試験成績・定期試験成績 90%の割合で、中間評価と後期評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%、後期評価を 60%の割合で通年での総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので、その日の授業内容について教科書を読み、予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し、授業後は必ずその日の内容をまとめて、知識の整理・定着に努めること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「病理学概論」 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

正常な状態がわかっていなければ病的な状態は理解できない。生理学・解剖学の復習も並行して行うことが必要である。

9 教員氏名 （ 山邊 芳久 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (病理学)

回数	授業内容
1	授業ガイダンス 病理学とは 解剖の種類 組織標本染色
2	疾病の分類 [細胞障害] 萎縮の種類
3	変性 蛋白質・脂質・糖原変性 壊死 壊疽
4	壊疽の種類 アポトーシス 死と脳死 痛風結石症
5	色素代謝異常 鉄代謝異常 黄疸 糖尿病 老化
6	生命徴候 [循環障害] 体循環と肺循環 充血 うっ血
7	虚血 出血の部位分類 原因分類 出血傾向 DIC
8	ショック 血栓症 血栓の運命 塞栓症 塞栓の種類 梗塞
9	浮腫 浮腫の成因 浸透圧とは 脱水症
10	高血圧症 原発性と続発性 [進行性病変] 肥大 過形成
11	化生 創傷治癒 骨折の治癒 異物の処理
12	移植 [炎症] 4 徴候と 5 徴候 形態学的変化
13	炎症の分類 滲出性炎 増殖性炎 肉芽腫性炎
14	細胞障害 循環障害 炎症のまとめ・復習
15	中間試験
16	試験解説
17	[免疫異常] 自然免疫と獲得免疫 細胞性免疫 液性免疫
18	免疫不全 自己免疫疾患 アレルギー I 型～V 型
19	[腫瘍] 自律性増殖 上皮性と非上皮性 良性と悪性
20	腫瘍細胞の特徴 異型性と分化度 腫瘍の分類
21	腫瘍マーカー 発育段階 前癌性病変 TNM 分類
22	早期癌と進行癌 転移の種類 癌の外因と内因
23	癌の診断と治療 主要な癌 生体への影響
24	[先天性疾患] 遺伝子と染色体 遺伝性疾患
25	遺伝性疾患の種類 染色体異常 催奇形因子
26	[病因] 内因 性別 内分泌障害
27	生物学的外因 病原微生物の種類 感染経路
28	物理的外因 化学的外因
29	医原病 栄養障害 ビタミン欠乏症
30	免疫異常 腫瘍 先天性疾患 病因のまとめ・復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (外科学概論)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

外科学を通して、炎症、感染、侵襲に対する生体反応について学習し、代表的な外科疾患の病態と診断・治療法について理解する。

2 到達目標

救命救急にも直結する外科学の基礎に関して、各々の領域におけるキーワードをについて理解し簡単に説明できる。

3 授業の方法

スライド・プレゼンテーションを提示して外科学の各領域の講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習はテキストの該当領域を通読しておくこと、講義に出てくる用語の理解がしやすい。復習は、授業された領域の国家試験過去問題を解いてみると記憶に残りやすい。

7 使用教材， 教具

全国柔道整復学校協会監修「外科学概論」（改訂第4版） 南江堂

8 学生へのメッセージ

講義中に解説される重要事項に注目してください。国家試験の過去の問題も提示して解説します。

9 教員氏名 (川上 恭)

所 属 (ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科)

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 外科学概論 ）

回数	授業内容
1	外科学とは、損傷・創傷
2	熱傷・炎症と外科感染症
3	腫瘍
4	ショック、輸血・輸液
5	消毒と滅菌、手術
6	麻酔、移植と免疫
7	出血と止血、心肺蘇生法
8	脳神経外科疾患
9	甲状腺・頸部疾患、乳腺疾患
10	胸壁・呼吸器疾患
11	心臓・脈管疾患
12	腹部外科疾患（1）腹部外科疾患
13	腹部外科疾患（2）消化器疾患
14	腹部外科疾患（3）代表的腹部外科疾患
15	定期試験
16	試験解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (整形外科学)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

総論では、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科治療法、骨関節損傷総論などについての学習。また各論では、疾患別・身体部位別に学習していく。

2 到達目標

総論では、運動器についての基礎知識、代表的な整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科治療法などについての理解を深める。

各論では、整形外科疾患の概念、定義、疫学、病因、病態、症状、検査所見、治療法、予後などを理解していく。

3 授業の方法

プリントを配布、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4 成績評価方法・基準

中間試験 50% 定期試験 50%、授業態度

5 評価の際の特記事項

授業態度には欠席回数、受講集中度、小テストの結果などを評価に含みます。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

分量が非常に多い科目ですので、一気に覚えるのはとても難しいと思います。授業時に話したポイントに関してはこまめに復習してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「整形外科学」(改訂第3版) 南江堂
配布プリント

8 学生へのメッセージ

覚えるべき分量が多いこの科目ですが、各整形外科疾患の知識を深め、国家試験だけでなく、資格取得後に、臨床の場においても応用できる知識を身につけていきましょう。

9 教員氏名 (川上 恭)

所 属 (ところ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科)

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 整形外科学 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション、整形外科とは
2	整形外科学の診察法・診断法
3	整形外科学の検査法・治療法
4	感染性疾患
5	骨及び軟部腫瘍
6	非感染性軟部・骨関節疾患
7	全身性の骨・軟部疾患
8	中間試験 解説・解答
9	骨端症
10	四肢循環障害、下肢の神経麻痺
11	上肢の神経麻痺、神経障害
12	全身性の神経、筋疾患
13	身体部位別各論、腰部・膝
14	全範囲のまとめ
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ リハビリテーション医学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

リハビリテーションの概要と、各疾患における考え方について概説する。

2 到達目標

リハビリテーションの理念と各疾患に対する考え方を理解することが出来る。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義のほか、講義毎に小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「リハビリテーション医学」（改訂第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復を学ぶ上で馴染みが薄いと思われるリハビリテーションの概念ですが、患者様のよりよい日常生活や高いQOLの獲得に向けて、一緒にその概念や考え方を学びましょう。

9 教員氏名 （ 三根 立己 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（リハビリテーション医学Ⅰ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション、リハビリテーションの理念
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態
3	障害の階層とアプローチ
4	リハビリテーション評価学
5	リハビリテーション障害学と治療学
6	リハビリテーション医学の関連職種
7	リハビリテーション治療技術
8	運動器のリハビリテーション A 骨折の治療と後療法
9	B 骨粗鬆症 C 捻挫
10	D 上肢損傷後症候群 E 下肢損傷後症候群
11	F 頸肩腕症候群の病態 G 腰椎症
12	H 肋骨骨折 I アキレス腱断裂
13	リハビリテーションと福祉
14	障害者スポーツ
15	定期試験
16	試験解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (リハビリテーション医学Ⅱ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

高齢者のリハビリテーションの概要と各疾患における考え方、機能回復方法について、機能訓練指導を通して概説する。

2 到達目標

高齢者のリハビリテーションの理念と各疾患に対する考え方を理解することができ、柔道整復師が機能訓練指導を通じて、具体的に運動機能の改善、回復方法を実践できるように、その理論を習得することを目標とする。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義を中心に実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材, 教具

全国柔道整復学校協会監修「リハビリテーション医学」(改訂第4版) 南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復師と機能訓練指導」 南江堂

8 学生へのメッセージ

45分の授業なので、授業開始時間を厳守してください。柔道整復を学ぶ上で高齢者のリハビリテーションの概念を理解しなければなりません。そして高齢の患者様のよりよい日常生活や高いQOLの獲得に向けての実践指導方法を獲得するために、貪欲に学習に邁進してください。

9 教員氏名 (伊藤 元太郎)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科)

実務経験の詳細 (施術所にて柔道整復師として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（リハビリテーション医学Ⅱ）

回数	授業内容
1	高齢者のリハビリテーション 平均寿命と健康寿命
2	加齢と老化について・老年症候群
3	フレイル ロコモティブシンドローム・サルコペニア
4	高齢者を取りまく医療制度
5	認知症の理解
6	高齢者虐待 要介護の予防
7	リハビリテーション前置主義 地域リハビリテーション
8	パーキンソン病のリハビリテーション
9	脳卒中のリハビリテーション
10	高齢者介護とICF A 高齢者介護 B ICF
11	C リハビリテーションとICF D 機能訓練とICF
12	ロコモティブシンドローム
13	高齢者自立支援の理解
14	高齢者の運動機能維持
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

1年時に修得した受身、投技を復習すると共に、相手を尊重し、認定実技を踏まえて礼法・受身・形・投技を習得する。

2 到達目標

全講義が終了した時点で、各々の身体能力に合った投技を工夫できるようにする。

3 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

4 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。（認定実技要綱より）

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道」 南江堂出版など、資料を適宜配布する。

8 学生へのメッセージ

相手を尊重し、怪我をしない、させないように集中して授業に取り組んで下さい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（柔道Ⅱ）

回数	授業内容
1	受身、形の復習
2	浮落、背負投
3	肩車
4	浮腰
5	払腰
6	内股
7	送足払
8	釣込腰
9	支釣込足
10	約束乱取の練習
11	礼法～形への流れ
12	技の練習（背負投～大内刈）
13	技の練習（小内刈～背負投）
14	技の練習（小内刈～大内刈）
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いての攻防を習得。

2 到達目標

自己の責任を果たし仲間と協力して、基本動作、対人的技能を身につける。

3 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

4 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。（認定実技要綱より）

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道」 南江堂出版など、資料を適宜配布する。

8 学生へのメッセージ

柔道の特性に関心を持ち、積極的に取り組むとともに、相手を尊重し相手の能力を考慮し、怪我をしない、させないように集中して授業に取り組んで下さい。

9 教員氏名 （ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（柔道Ⅲ）

回数	授業内容
1	前期の復習
2	形（手技）
3	形（腰技）
4	形（足技）
5	約束乱取の復習（浮落）
6	約束乱取の復習（背負投）
7	約束乱取の復習（浮腰）
8	約束乱取の復習（払腰）
9	約束乱取の復習（内股）
10	約束乱取の復習（送足払）
11	約束乱取の復習（釣込腰）
12	約束乱取の復習（支釣込足）
13	礼法～形
14	礼法～形～約束乱取の練習
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会保障制度 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

日本の社会保障制度の概要を学び、併せて柔道整復師の保険診療の基礎を学ぶ。

2 到達目標

社会保障制度の内容、社会保障の現状、日本の保健医療の内容を理解する。また、柔道整復師が取り扱う各種保険の種類やの受領委任制度を理解する。

3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習をしてくる。復習は、その日のうちに。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

医療関係者は社会保障制度についての知識がなければなりません。特に、柔道整復師は健康保険等を利用して受診する患者に対して適切な対応が求められます。社会保障制度の基礎的な知識を学ぶ大切な授業なので、不明な点は必ず質問して、理解できるように努力しましょう。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細 （ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 社会保障制度 ）

回数	授業内容
1	社会保障とは
2	社会保障制度の概要
3	高齢者のすすむ人口構造
4	増加する社会保障給付と負担
5	社会保障制度改革の全体像
6	高齢者保険福祉、介護保険制度、子育て支援施策
7	保健医療①（医療需要の変化、増大する国民医療費）
8	保健医療②（医療従事者の確保と質の向上、医療保険制度の概要）
9	保険診療（保険診療）
10	保険診療（自賠責、労災）
11	保険診療（自由診療）
12	受領委任制度とは
13	柔道整復師法
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

上肢、下肢の軟部組織損傷の各論を学習する。

2 到達目標

各損傷の発生機序、分類、臨床症状を理解し、柔道整復師の業務範囲内外を明確にすることで、臨床力の基礎を修得することを目標とする。

3 授業の方法

教科書を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った事前の教科書の予習、復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

軟部組織損傷は整骨院業務において必ず遭遇する疾患になります。スポーツ分野へ就職を希望する人には特に重要な項目となるので、しっかりとその知識を身につけるように努力してください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	肩関節部の軟部組織損傷 1 筋、腱の損傷
2	2 スポーツ損傷
3	3 不安定症
4	4 末梢神経障害 5 その他の疾患
5	上腕部の軟部組織損傷
6	肘関節部の軟部組織損傷 1 靭帯の損傷
7	2 野球肘
8	3 テニス肘 4 その他の疾患
9	前腕部の軟部組織損傷
10	手関節部の軟部組織損傷 1 TFCC 損傷
11	2 ド・ケルバン病 3 末梢神経障害
12	4 キーンベック病 5 マーデルング変形
13	手部、指部の軟部組織損傷
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	股関節部の軟部組織損傷 1 鼠径部痛症候群
18	2 股関節唇損傷 3 ばね股
19	4 梨状筋症候群 5 その他
20	大腿部の軟部組織損傷
21	膝関節部の軟部組織損傷 1 半月板損傷
22	2 靭帯損傷
23	3 発育期の膝関節障害
24	4 腸脛靭帯炎 5 鷲足炎
25	6 膝蓋大腿関節障害 7 膝周囲の関節包、滑液包の異常 8 神経障害
26	下腿部の軟部組織損傷 1 アキレス腱炎 2 アキレス腱断裂
27	3 下腿三頭筋に肉離れ 4 下腿部のスポーツ障害
28	足関節部の軟部組織損傷 1 足関節捻挫
29	2 足関節捻挫の類症鑑別
30	足・趾部の軟部組織損傷
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

体幹部脱臼の各論、頭部・顔面部軟部組織損傷の各論を学習する。

2 到達目標

各損傷の発生機序、分類、臨床症状を理解し、柔道整復師の業務範囲内外を明確にすることで、臨床力の基礎を修得することを目標とする。

3 授業の方法

教科書を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

45分授業と短いため、特に授業進度計画に沿った教科書の予習、復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

解剖学、生理学等の基礎医学で得た知識と関連付けて覚えていくことが大事です。臨床例を知ることでモチベーションを上げるきっかけにしてください。

9 教員氏名（ 陣内 和幸 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	環軸関節脱臼
2	下位頸椎脱臼
3	胸椎部脱臼骨折
4	胸腰椎移行部脱臼骨折
5	腰椎脱臼
6	頭部、顔面部打撲
7	顎関節症（Ⅰ～Ⅲ型）
8	顎関節症（Ⅳ～ⅤⅢ型）
9	外傷性顎関節損傷（頸椎捻挫型、根症状型）
10	外傷性顎関節損傷（頸部交感神経症候群、混合型、脊髄症状型）
11	外傷性頸部症候群
12	胸郭出口症候群
13	寝違え
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	胸肋関節損傷
18	肋間筋損傷
19	胸・背部打撲
20	背部の軟部組織損傷
21	腰部の軟部組織損傷（関節性 椎間関節性）
22	腰部の軟部組織損傷（関節性 椎体間連結）
23	腰部の軟部組織損傷（靭帯性 棘上・黄色・棘上靭帯）
24	腰部の軟部組織損傷（前後仙腸・骨間仙腸・仙結節・仙棘靭帯）
25	腰部の軟部組織損傷（筋・筋膜性 腰部）
26	腰部の軟部組織損傷（筋・筋膜性 仙骨部、殿部）
27	腰部の軟部組織損傷（筋・筋膜性 尾骨部）
28	体幹脱臼 復習
29	頭部軟部組織損傷 復習
30	体幹部軟部組織損傷 復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

上肢骨折を学習する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、
施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントや教科書を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。
理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収し
てください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころこ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折
2	肩甲骨骨折 1 体部および上角・下角骨折
3	2 関節窩骨折
4	3 頸部骨折
5	4 肩峰骨折 5 烏口突起骨折
6	上腕骨近位部骨折 1 骨頭骨折
7	2 解剖頸骨折 3 外科頸骨折
8	4 大結節単独骨折 5 小結節単独骨折
9	6 近位骨端線離開
10	上腕骨骨幹部骨折
11	上腕骨遠位部骨折 1 上腕骨顆上骨折
12	2 上腕骨外顆骨折
13	3 上腕骨内側上顆骨折
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	前腕骨近位部骨折
18	前腕骨骨幹部骨折 1 橈骨骨幹部骨折 2 ガレアジ骨折
19	3 尺骨骨幹部骨折 4 モンテギア骨折
20	5 橈・尺骨両骨骨幹部骨折
21	前腕骨遠位端部骨折（コーレス骨折）
22	前腕骨遠位端部骨折（その他の骨折）
23	手根骨部骨折 1 舟状骨骨折 2 月状骨骨折
24	3 有鈎骨骨折 4 豆状骨骨折
25	5 その他の手根骨骨折
26	中手骨部骨折 1 中手骨骨頭部骨折 2 中手骨頸部骨折
27	3 中手骨骨幹部骨折 4 第1中手骨基部骨折
28	5 第5中手骨基部骨折
29	指骨骨折 1 基節骨骨折 2 中節骨骨折
30	3 末節骨骨折 4 マレットフィンガー
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床上発生頻度の高率な骨折、脱臼、軟部組織損傷の診察法、整復法の基本手順を理解し、実技実習をとおして学習する。

2 到達目標

各損傷の特徴、発生機序や症状を理解し、それらの診察手順、整復や検査法の基礎を、実技をとおして学習し、柔道整復術の基本を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、診察法、整復法、固定法、検査法を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

柔道整復学の理論編と関連付けて理解を深めてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

1年次で学習した包帯の技術を更に向上させましょう。臨床力を身に付けるため、患者への対応も実践できるようにロールプレイングを通して学びましょう。白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名 （ 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころも医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (柔道整復実技V)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折 整復法
2	鎖骨骨折 固定法 (デゾー包帯固定法)
3	鎖骨骨折 固定法 (リング固定法、8字帯)
4	鎖骨骨折 固定法 (セイヤー絆創膏固定法、厚紙副子固定法)
5	肩鎖関節上方脱臼 整復法
6	肩鎖関節上方脱臼 固定法 (ロバート・ジョーンズ絆創膏固定)
7	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法
8	上腕骨骨幹部骨折 固定法
9	肩関節前方脱臼 整復法 (コッヘル法)
10	肩関節前方脱臼 整復法 (ヒポクラテス法)
11	肩関節前方脱臼 固定法
12	コーレス骨折 整復法 (牽引直圧整復法)
13	コーレス骨折 整復法 (屈曲整復法)
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	コーレス骨折 固定法
18	肘関節後方脱臼 整復法
19	肘関節後方脱臼 固定法
20	第5中手骨頸部骨折 固定法
21	肘内障 整復法
22	肋骨骨折 固定法
23	第2指PIP背側脱臼 固定法
24	下腿骨骨幹部骨折 固定法
25	膝関節側副靭帯損傷 固定法
26	アキレス腱断裂 固定法
27	足関節捻挫 固定法 (バスケットウィーブ)
28	足関節捻挫 固定法 (ヒールロック・フィギュアエイト)
29	足関節捻挫 固定法 (厚紙副子)
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技VIスポーツ競技者の外傷予防 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

競技者の外傷予防について、運動生理学を理解しながらスポーツ外傷や障害の予防法を理論とその実際を学ぶ。

2 到達目標

各種競技の特徴を学びながら運動生理学の理論を理解し、好発する各損傷を知り、それらの予防法の基礎について学んでいきます。特に、専門基礎分野と専門分野の知識が不可欠となるので、解剖学、生理学、柔道整復理論を学習し、理解を深めるように日々の学習に取り組んでください。

3 授業の方法

理論学習は教室で、実技実習は実習室において実施します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得する上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「競技者の外傷予防」 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

専門基礎医学である生理学の理解と、運動学で引用される解剖学の理解度が求められるので各科目の予習と復習をするようにしてください。白衣は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名 （ 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	運動生理学の概要
2	運動が生体に与える影響
3	運動のエネルギー代謝
4	無酸素性エネルギー供給機構
5	有酸素性エネルギー供給機構
6	運動強度の違いによるエネルギー供給機構の動員割合
7	運動と呼吸・循環
8	競技者の運動生理学的特徴
9	競技者の外傷予防
10	外傷の発生原因
11	外傷の予防対策
12	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック（
13	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際
14	種目別の外傷予防とその実際
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

柔道整復師の基本施術である整復法や固定法の実際を実技で体験し、基礎を学ぶ。

2 到達目標

座学で学んだ外傷の整復法や固定法の実際を実技を通して体験し、実践力を身に付けることを目標とする。

3 授業の方法

実習室での実技を教科書（理論・実技）を併用しながら授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得する上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学 理論編」第7版 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学 実技編」第2版 南江堂

8 学生へのメッセージ

実技では、実習着の着用、爪の手入れ、装飾品の禁止などに留意してください。女子は髪を後ろで束ねてください。

9 教員氏名 （ 伊藤 元太郎 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

回数	授業内容
1	膝蓋骨骨折 整復法
2	膝蓋骨骨折 固定法
3	下腿骨近位端部骨折 整復法
4	下腿骨近位端部骨折 固定法
5	下腿骨骨幹部骨折 整復法
6	下腿骨骨幹部骨折 固定法
7	下腿骨遠位端部骨折 整復法
8	下腿骨遠位端部骨折 固定法
9	足根骨骨折 整復法
10	足根骨骨折 固定法
11	中足骨骨折 整復法
12	中足骨骨折 固定法
13	趾骨骨折 整復法
14	趾骨骨折 固定法
15	中間試験
16	試験解説
17	肩腱板損傷 検査法
18	上腕二頭筋長頭腱損傷 検査法
19	大腿部打撲 検査法
20	ハムストリングス肉離れ 検査法
21	前十字靭帯損傷 検査法（ラックマン）
22	前十字靭帯損傷 検査法（前方引き出し）
23	側副靭帯損傷 検査法（側方動揺テスト）
24	側副靭帯損傷 検査法（牽引アプライテスト）
25	半月板損傷 検査法（マックマレーテスト）
26	半月板損傷 検査法（圧迫アプライテスト）
27	下腿肉離れ損傷 検査法
28	足関節捻挫 検査法（内反動揺テスト）
29	足関節捻挫 検査法（前方引き出し）
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所、臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
施術および施術所の運営についても見学する。

3 授業の方法

各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。

一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、開始時間の20分前には到着し10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

「実習の手引き」

8 学生へのメッセージ

資格取得後、実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。

体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合、必ず担当教員に連絡をしてください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属 （ ころも医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

回数	授業内容
	7月～8月の間で5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所、臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
施術および施術所の運営についても見学する。

3 授業の方法

各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。

一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、開始時間の20分前には到着し10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

「実習の手引き」

8 学生へのメッセージ

資格取得後、実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。

体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合、必ず担当教員に連絡をしてください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころも医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

回数	授業内容
	1月～2月の間で5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。